

令和4年度 第3回 井伊谷小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月10日（金） 午後2時40分から午後4時20分まで
- 2 開催場所 井伊谷小学校 音楽室
- 3 出席委員 安戸 哲弘、中村 朋子、高林 幸子、田力 弘美、中野 正雄
永田 琢也、田力 圭治、椎名 啓文、永野大成（CSコーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 山本 俊行（校長）、小山 貴広（教頭）、大浦 幹夫（CS担当）
山下いづみ（CSディレクター）
- 6 教育委員会 なし
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項

（1）現在までの取組実践報告

（2）熟議

- ①令和4年度学校関係者評価について
- ②令和5年度学校運営の基本方針について
- ③令和4年度学校運営脅威議会の自己評価について

（3）その他連絡事項

- 9 会議録作成者 CSディレクター 山下いづみ

10 会議記録

司会の小山教頭から、委員総数9人全員の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

前回の議長選出により、椎名啓文委員が担当することとなった。

（1）現在までの取組実践報告

子供たちの学びが深まるように、外部人材の登用をしたり、見つめる会、クラブや読み聞かせ等のボランティアをしていただいたとの報告がCS担当大浦より報告があった。

（2）熟議

①令和4年度学校関係者評価について

CS担当教務大浦より、令和4年度学校評価者のまとめについて説明があった。

委員からは以下の発言があった。

- ・「3・なりたい自分や目の目標を持つことができている」という項目について児童と保護者の間に開きがあることについてどのようにとらえているか。（永野委員）
- ・学校行事に目当てを持たせ、その結果を振り返るという形を繰り返していくことで、子供たちはなりたい自分に近づいてゆく自信をもっている。それを職員から家庭へとしっかりと伝達できるように取り組む必要がある。（CS担当大浦）
- ・校内の掲示物などを見ると、学校の取り組みは伝わる。子供たちの自己評価が高いの

はこういうことの現れだと思う。(中野委員)

- ・運営委員の評価数値が低いのは、子供たちのことをよく知らないからではないか。アンケート項目自体も委員になじみがない、任期を長期かつ多数にして取り組めないだろうか。(安戸会長)
- ・実態が伴っていない部分はある。委員の任期は3年だが、PTA会長や自治会長の任期は1年でそれに伴い交代となっている現状である。人数は10人が最大である。(教頭)

②令和5年度の学校運営の基本方針について

グランドデザイン、基本方針について校長からスライドにて説明があった。

委員からは以下の発言があった。

- ・教科担任について、現場として増員する必要があるのかの質問(田力圭治委員)
- ・教員免許についてみても教科担任制は難しい実態があるが、高学年については効果的に進めていく。(校長)
- ・担任以外で多面的に子供をみることができるのは良いことだと思う。(中村委員)
- ・取り出し授業について、保護者の反応はどんなものか。(高林委員)
- ・教科取り出しや外国語児童の指導として効果がある。(教頭)
- ・子供の「困り感」を説明して保護者に寄り添った対応をしている。(校長)
- ・運営協議会ができることとして、学校とは違う差別化をして進めていく仕組みを作ることが大切なのは、(永田委員)
- ・具体的に推薦する講師の名前を挙げられるくらいにしなければ、協議会が足踏みしてしまうのではないか。(安戸会長)

③令和4年度学校運営協議会の自己評価について

各委員からの評価のまとめについて教頭より説明があった。

- ・具体的な枠組みを作って話し合っていくのが良いのではないか。(安戸会長)
- ・外部講師については、要望があるのか。(高林委員)
- ・担任から要望を出したり、先方より打診されりすることもあり、交渉して実現する。(CS担当大浦)
- ・カリキュラムや年間スケジュールはあるのか。(永田委員)
- ・総合学習の時間を使い、週に2時間年間で75時間の中で担任が組み立てていく。各学年が目指している目標に取り入れていく。(校長)
- ・地元の農商工とつながるなかで、地域とつながって行けたら良い。(永田委員)
- ・運営協議会が地域の中の人材を推薦して講師として連れてきてくれたら、持続可能なものになるのではないか。来年度は一年かけて探りながら、その先をやって行けるようになってほしい。(教頭)
- ・任期3年×3、9回でつくり上げることを目指す。(永田委員)
- ・半数交代で引き継ぎながらやっていけるよう次回議題の中で検討したい。(安戸会長)

- ・委員の選出や協議会の開催回数の問題も含めて、来年度は地域の力を活用していくためにどうしたらいいか話し合っていきたい。情報発信の連絡方法としてさくら連絡網のツールを使い、繋がりを作っていくようにしたい。(教頭)
- ・本来はCSコーディネーターがやるべきことであると思うので取り組みたい。(CS永野委員)

授業参観ののち、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) その他の連絡事項等

司会から、令和5年度第1回は令和5年6月15日(木)午後1時40分から(授業参観を含む)開催する旨の報告があった。